



2007年8月19日

いま起きつつあること…

「ヤスクニ」の問題って？

😊 ニホンジンならあたりまえ？

毎年8月には、首相の靖国神社への参拝が新聞やテレビで問題にされます。いったい「靖国」って何が問題なのでしょ？

靖国神社は、明治天皇によって設立され、天皇に忠義をつくして戦死した人を「英霊」として称え祀りつづけてきた神社であり（一九四五年までは国営）、空襲や原爆などで亡くなった市民約80万人は含まれません。

戦後、一宗教法人となった靖国神社に、国の代表者たちは繰り返し参拝を続けてきました。「神社は憲法で言う宗教ではない」とか、「国のために戦って命を落とした先達たちの甲斐は日本人なら当然だろう」と言いながら、憲法20条の定める「政教分離の原則」が侵されているのです。国の代表者が一宗教施設に公式に参拝するなんておかしいと思いませんか？

😊 ほんとうは…「ヒーロー化」

中曽根元首相は言いました。「米国にはアーリントン、どの国にも国のために倒れた人に対して国民が感謝を捧げる場所はある。これは当然なことであり、さもなくて、だれが国に命をささげるか…皆さん、聞きましたか？…これぞ本音。国のために命を捧げさせるために、靖国という場所が今現在でも必要なのです。戦死者を称え、祀る「戦死者の顕彰シテム」——過去に担ってきた

😊 あれ？なんだか似ているような…

ように、未来においても靖国神社にこの役割を担わせようとしているのです。なぜなら国家は戦争に備えているからです。

国家が一丸となって戦争を行うには、「戦死者の顕彰シテム」と、「国のために命を捨てることは名誉なこと」と教え込む学校教育の二つを必要とします。

戦時中、お国のために！天皇のために！

幾万の命がこの国家権力の被害者となったことでしょ。あれ？なんだか似てませんか？最近、教育の現場で、妙に愛国心とか「日の丸」「君が代」とか…。教育の憲法である「教育基本法」も変えられてしまった中で、平和憲法まで手放したら、再び「お国のために」って掛け声が聞えてきそうなの…。

警戒しましょう！ 国のために人々があるわけではありません。個人の権利を守るためにこそ国があるのです。（日本中会神学・社会委員会）

★おすすめ本



『武力で平和はつれない——私たちが改憲に反対する14の理由』
市民意見広告運動編
合同出版

「武装しないままで侵略されたりするのはいいの？」
「北朝鮮の核や中国の軍拡に備えるのは当然でしょ？」
「ロシア、中国、韓国が日本の領土をおびやかしている横暴を制裁すべきでは？」
——多くの人がもつ14の疑問に、事実にもとづきながら、ていねいに答えていて、武力にたよることがどんなに危ないことか、よくわかります。